

災害時のトイレは、命にかかわります。 ～災害時のトイレアクションを学ぼう！～

「3日以内に仮設トイレが行き渡ったのは、34%」

1 災害時のトイレ問題

断水や停電、下水道機能の損壊等により、水洗トイレは使えなくなります。そのとき、多くの人々が災害時の避難所トイレとして思い浮かべるのは、建設現場用の仮設トイレだと思います(右写真)。では、東日本大震災のとき、仮設トイレが避難所に行き渡るのにどのくらいの日数を要したのでしょうか？岩手県、宮城県、福島県の特定被災地方公共団体のうち29団体から得られたアンケート結果(図1)によると、3日以内は34%でした。一方で8日以上は49%でした。

水が流れない水洗トイレは、排泄物で溢れ劣悪な環境となり、感染症が発生することもあります。また、トイレが不衛生であったり使い勝手が悪いと、トイレに行く回数を減らすために水分や食事を控えてしまい体調を崩します。エコノミークラス症候群や脳梗塞、心筋梗塞で命を落とすことにもなります。

災害時にどのようなトイレ問題が起こるかを整理し、一人一人がいざという時に、実践できるトイレ対応方法を学ぶことが不可欠です。



写真1 校庭に設置された仮設トイレ



写真2 和式トイレに設置されたイス

2 防災教育「災害時のトイレアクションを学ぼう！」

NPO 法人日本トイレ研究所は、「外部団体を活用し地域と連携した防災教育推進事業」の一環として、災害時のトイレについて考える教育プログラム「災害時のトイレアクションを学ぼう！」を作成しました。

このプログラム(図2)では、①『空間と設備』『衛生と健康』『災害時要援護者』の3つの視点から、災害時にどのようなトイレ問題が起こるかを学びます。②日頃から取り組んでおくべきこと、備えておくことを伝えます。③グループワークで、障害者、高齢者、外国人などが避難所のトイレで困ることを話し合い、自分にできるトイレアクション(行動)を考えます。災害時のトイレ対応は、命にかかわる重要なテーマであることを理解し、一人一人が積極的に行動を起こせるようになることを期待しています。

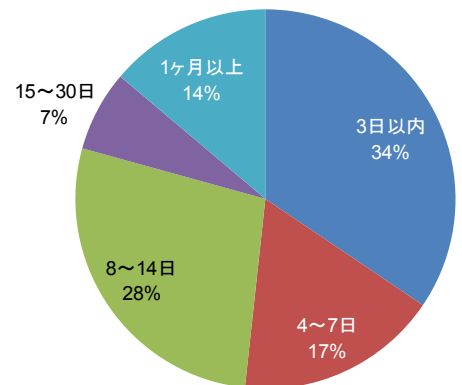


図1 仮設トイレが行き渡るのに要した日数
(調査:名古屋大学エコトピア科学研究所、協力:日本トイレ研究所)

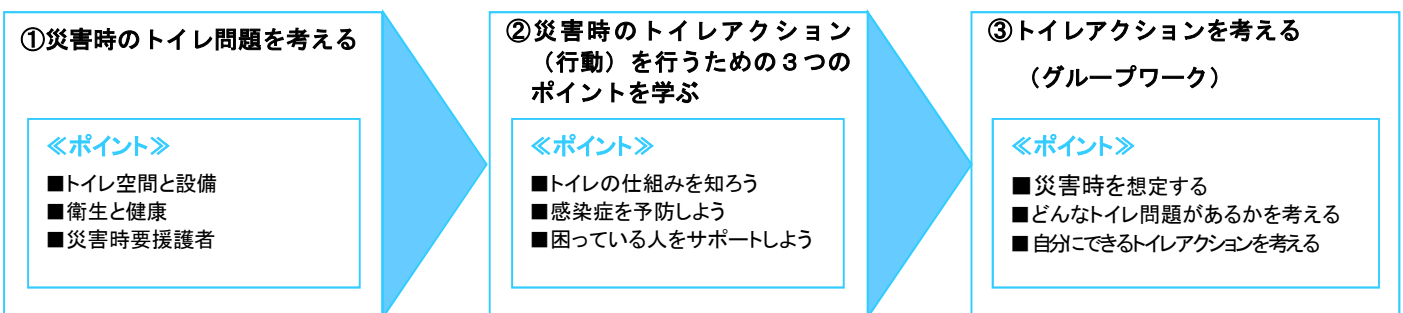


図2 「災害時のトイレアクションを学ぼう！」プログラムの構成(90分)

ワークシート、説明用資料等は、地域教育推進ネットワーク東京都協議会ホームページに掲載しています。

ネットワーク 東京都 防災教育で検索